

科目名		テーマ		
経営史		近代企業経営における競争と革新		
担当者名	配当年次	単位数	学科	選択・必修 / 指定科目
皆川 國生	2	2	経済情報学科	選択/ 教職課程科目 (商業)

#### [ 授業の内容・到達目標 ]

産業革命以降、企業活動のグローバルな展開に至るプロセスを企業家精神・意思決定・発明と充用などのキーワードを用いて概説します。資本主義経済の特徴を踏まえ、その担い手としての企業家の不断の輩出、企業の発生が何故可能となるのか、企業成長や企業連関・企業間競争のなかでどのような経営戦略がとられ、また企業形態や会社組織に関してどのような変革がもたらされたのか、リーディングセクターやリーディングカンパニーの変遷、企業活動の社会的制度的条件・インフラ整備の在りようなど、経済史と密接な関連をもつ経営史の特徴をイギリス・アメリカ・日本の代表的な企業をとりあげながら説明します。

この講義を通じて、ヒトではない会社がヒトと同じように権利義務の主体となり、あたかもヒトのごとく意思決定を行い、ヒトのごとく競争し、あるものは勝ち残って資産を増やし、あるものは敗れてヒトのごとく寿命を終える、なぜこのようなことが起こるのか、それは何時から普通に見られるようになったのか等々が理解できるはずです。

経済学や経営学の基礎的な知識の習得をも織り込みながら、会社の社会的役割、会社は誰のものか、会社はどこから来てどこへ行くのかを共に考えます。

#### [ 授業方法 ]

講義形式。

毎回の授業予定に対応するテキストの箇所を必ず事前に読んで、授業に出席するようにして下さい。受講生の皆さんには起業家の立場であれこれを考えてもらいます。

#### [ 成績評価の方法 ]

以下の点を総合して評価します。

- |           |     |
|-----------|-----|
| ①授業への参加態度 | 10% |
| ②小テスト     | 30% |
| ③期末試験成績   | 60% |

#### [ テキスト ]

安倍悦生『経営史』日経文庫、2002年。

#### [ 参考文献 ]

ハウンシエル (和田一夫他訳) 『アメリカン・システムから大量生産へ』名古屋大学出版会、1998年。米川伸一編『経営史』有斐閣双書、1977年。安倍悦生他編『ケースブック アメリカ経営史』有斐閣、2002年。宇田川勝・佐々木聡・四宮正親『失敗と再生の経営史』有斐閣、2005年。藤本隆宏『能力構築競争』中公新書、2003年。

#### [ 履修上の注意・その他 ]

--

## [ 授 業 計 画 ]

実施回	内 容
1	経済史・経営史・企業者史——ガイダンス：経営史の誕生と発展
2	経営史における基礎的概念
3	資本主義以前の経営
4	産業革命と工場制度の成立
5	産業革命と工場制度の成立（つづき）
6	会社制度の発達
7	アメリカにおけるビッグビジネスの成立
8	企業結合と独占禁止——ロックフェラーの戦い
9	多角化と事業部制——デュポンの革新
10	フォード・システム——大量生産体制の成立
11	フォードとGM——競争の戦略
12	フランチャイズ・システム——コークとマック
13	IBMの挑戦——IT産業の展開
14	トヨタ・システム——KAIZEN・KANBAN
15	まとめ